

## 第44回：わが家の西遊記

中国の春節(旧正月)が今年は2月14日のバレンタインデー(情人節)から始まることになり、チャイナウォッチ業務を一休みするチャンスと考え連続休暇を願い出た。海外へ行きたいという家内の強い要求に対して、ふむふむと曖昧な返事を繰り返していたら、敵もさるもの、何時の間にか内堀/外堀が埋められ、気付いた時には旅行会社にツアー料金が振り込まれ、ドイツ南部を南下するドイツ・オーストリアツアーが確定していた。所謂ロマンチック街道である。海外には慣れているつもりだが、実はヨーロッパ旅行は初めての経験である。仕事の関係で中国には15年も滞在し、その関係でシンガポールや香港は何度も訪問したし、一時期バブルの後始末の関係で米国や豪州は出張で何度も足を運び、家族全員引き連れてプライベート旅行にも連れていったこともあるのだが、欧州だけはこれまで縁がなかった。決まったものは仕方ない。時差を伴う旅行は辛いものだと思いながら、12時間モルフトハンザ航空の狭い座席に閉じ込められ、疲労困憊のへるへる状態でフランクフルト国際空港にたどり着いた。そこからは陸路。アウトバーンを大型バスで古都ハイデルベルグに向かった。家内がフリータイムの多いツアーを選んだ関係で、到着初日からいきなりドイツの街角に放り出され、自由行動の夕食となった。

明日から約一週間、ボリュームたっぷりのドイツ料理が続くので、せめて初日だけは別の料理にしようと思いついた。家内は隣国のフランス料理かイタリア料理が食べたかったようだが、宿泊ホテルの周辺には適当な店が見当たらない。ドイツの冬の夕暮れ時は死ぬほど寒い、おまけに腹も減ってきた。早く店を見つけないと吹雪のなかで八甲田山になるのではないかと心配しながら、周囲をきょろきょろ眺めつつ大学通りを歩いていると、突然「上海・・・」という看板が目飛び込んできた。中華料理屋のようだ。モロは試しと入って見ると瀟洒な中華レストランではないか。しがる家内に着席するよう頼み込み、メニューを広げると意味不明のドイツ語で料理や酒を示すような文字が並んでいる。ところどころに中国語らしい単語があり「Yangchou・・・」は、どうやら揚州炒飯ではないか、「Ma-Po・・・」は麻婆豆腐に違いないと見当はつくのだが、いまいち自信が持てない。店員は全て中国人のようだが、はるばるドイツくんだりまで来て中国語を喋るのも業腹なので、ウェーターに漢字のメニューはあるかと英語で尋ねてみた。すると即座に漢字メニューがやって来るではないか。漢字とはまことに有り難いもので、すぐにメニュー全体を把握することができた。というわけで、欧州初日は地元の黒ビール、白ビール、ピルスナー、白ワインはリースリングにトロッケン、最後に赤ワインとあれこれ飲みながら揚州チャーハン、東坡肉そして青梗菜炒め等を美味しく頂いた。ウェーターに尋ねると近年、香港や台湾だけでなく、中国大陸からも数多くの団体ツアーがハイデルベルグにやってくるという。

翌日から総勢20数名のバスツアーが始まり、ローテンブルグ、ミュンヘン、ザルツブルグ、ウィーン等を駆け足で回ったが、ウィーンのような大都市はもちろん、ローテンブルグ郊外のような田舎町にも必ず中華料理屋があるのには驚いた。中国からやって来る観光客も日本人以上に多いようだ。荘厳な中世ゴシック

---

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

1/3



建造物を眺めていたら、突如頭のとっぺんにキンキン響く聞き覚えのある八釜しい言語が後ろから聞こえてくるではないか。中国に縁ある吾が身ではあるが、何が悲しくてローテンブルグの城砦の辺で上海語を聞かなければならないのか。神聖ローマ帝国に聖職者叙任権闘争……と中世の秋に思いを馳せ、深い思索に耽っていたところを、アイヤー！ライライ！ガウチョア～！といった騒々しい雑音によって、何度ぶち壊されたことか。この街道には各所に「Romantische Straße」という標識が立っており、車窓から眺めるとその下に「ロマンチック街道」と日本語が併記されている。ロマンチックな雰囲気損なうという声も一部にあるようだが、日本から大量の観光客が押し寄せてきた時代の名残なのである。不況の今この地を訪れる日本人観光客は減りつつあり、あと何年かすれば日本語の標識が外されてしまい、中国語の「浪漫街道」となって代わられるような気がするのである。

いま中国では年収6万元（1元＝約13円）から50万元程度が中流階級とされており、中国社会科学院の調査によると、中間層が人口の23%を占め、年1ポイントの割合で増加しているという。しかもその上にはわれわれ日本人のレベルを凌駕する富裕層がシェアこそ低いものの増加の一途を辿っている。ひとくちに人口の23%といっても、実数では3億人を超えることになり、アメリカの全人口に匹敵する。移動の自由が厳しく制限されてきた息苦しい共産中国もいまはむかし、テレビや冷蔵庫が持てはやされたのは20年も前のことであり、いまの中間層は携帯電話からパソコン、マイホームの後には小型車購入、更には海外旅行も視野に入りつつあり、中国の消費パワーは世界を圧倒している。ロマンチック街道がロマンチックとは程遠いパワフルな方々に占拠されてしまうのも時代の流れなのだろうか。（了）

文中の見解は全て筆者の個人的意見である。

平成22年2月25日

---

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号  
日本証券業協会 加入  
本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 03-5117-1040

## ご投資にあたっての注意事項

### 手数料等およびリスクについて

#### 株式の手数料等およびリスクについて

- 国内株式の売買取引には、約定代金に対して最大 1.2075% (税込み) (約定代金が 260,869 円以下の場合、3,150 円 (税込み)) の手数料をいただきます。国内株式を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。

国内株式は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。

- 外国株式等の売買取引には、売買金額 (現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額) に対して最大 0.8400% (税込み) の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

外国株式は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

#### 債券の手数料等およびリスクについて

- 非上場債券を募集、売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。

債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスク及び為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

#### 投資信託の手数料等およびリスクについて

- 投資信託のお取引にあたっては、申込 (一部の投資信託は換金) 手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。

投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

#### 株価指数先物 株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

- 株価指数先物取引には、約定代金に対し最大 0.0840% (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。
- 株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大 4.20% (税込み) (約定代金が 2,625 円に満たない場合は、2,625 円 (税込み)) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

株価指数先物 株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

### ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

---

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

3/3